

D7 深層インタラクション

人を抱擁するサイバネティックアバター

概要

本研究では、セラピーやカウンセリング支援等のメンタルケアを目的に利用される抱擁型サイバネティックアバター(CA)を開発します。CAと利用者の関係、CAの操作者と利用者との関係、CAと操作者の関係について研究開発を行い、メンタルケアを必要とする子どもや成人(自閉症児や高齢者も含む)を対象とした抱擁型CAの実現を目指します。

特徴

- メンタルケアなどを対象とする実用的サービスを提供するために必要な、抱擁型CAの基礎的研究開発に取り組んでいます。抱擁を伴う遠隔対話を実現するためのユーザインタフェースに関する研究開発にも取り組んでいます。
- 自分で自分を抱擁するための自己抱擁型CAプロトタイプとして、装着型のタッチセンサを活用したCAの開発も進めています。将来的に、セルフハグを通じて自分自身のメンタルケアをサポートする仕組みも開発しています。
- 特別支援教育施設で、子どもたちと抱擁しながら対話を行うことでメンタルサポートを行う取り組みを進めつつあります。既に予備的な実験を進行中で、多くの方々に抱擁型CAを体験していただいています。

今後の展開

- 特別支援教育施設における本格的な実証実験に向けて、CAの遠隔操作システムの開発や評価項目の検討を進めています。また、成人や高齢者を対象とした抱擁型CAの有効性を検証する取り組みも進めていきます。

テーマ「Society5.0への貢献～サイバーとフィジカルの融合に向けて～」との関連

- CAを介して、メンタルケアを必要とする人々に様々なサポートを行える仕組みの実現を目指しています。子どもから大人まで、様々な人に触れ合いを通じて心理的な安心感をもたらすことが出来る社会の実現に貢献します。



自己抱擁型CAのプロトタイプ（自分への接触を検出して発話する）



抱擁型CAを用いた、特別支援教育施設での実験風景